

JASMIM ジャーナル（日本音楽即興学会誌）

第 8 巻 2023 年

巻頭言

日本音楽即興学会編集委員会委員長 安藤 大地

..... 2

エッセイ

生きることは即興である，それはまるでへたくそな音楽のように—
2020～2022 年 コロナ時代の活動記録を交えて / ササマユウコ

..... 3

書評

Daniel Heller-Rozen: The Fifth Hammer, Pythagoras and the Disharmony of the World
ダニエル・ヘラー＝ローゼン『第 5 のハンマー ピタゴラスと世界の非調和』 / 若尾 裕

..... 11

2022 年度 JASMIM 助成 実施報告

Creative Music Festival 2022 『春の祭典』を（適当に）踊る / 若尾 裕

..... 13

JASMIM2022 年度大会参加報告

／三宅 珠穂

..... 15

日本音楽即興学会

巻頭言

日本音楽即興学会編集委員会委員長 安藤 大地

JASMIM ジャーナル 8 号をお届けします。今回は、投稿されたエッセイ、書評、2022 年度大会参加報告を掲載することができました。

新型コロナ感染症も落ち着きつつありますが、スタッフの感染で当日になって現地開催が不可能になる可能性も否定できないという事情もあり、昨年度の年次大会も 3 度目のオンライン開催となりました。

ササマさんのエッセイでは、この 3 年間我々が突き当たってきた問題に対して、活動を振り返ることでいろいろな視点を生み出しています。例えば、ササマさんが実際に行ったようにスマートフォン 1 台で制作を完結できるような環境が整い、映像制作のプロではない人間が作る映像作品の流通は一気に普及したと言えます。

一方、完全にフィクストメディアとなっている映像だけではなく、日本では、いわゆる **Streamer**、ライバーと言われる「リアルタイムでのパフォーマンス配信」も大きく人気が上がりました。ネットを見れば多くの人達の即興トークが繰り広げられています。ライブ用の音声配信プラットフォームも次々に登場しています。VR 空間でのジャムセッションのイベントも定期的に行われるようになりました。学術的には、やはりレイテンシをどう頑張っても消せないことが議論になっていますが、それ故に我々はレイテンシ問題にとらわれて、新たなプラットフォームへ即興音楽を持ち込むことを恐れてしまっているのかもしれない。

即興演奏も新たな時代を迎えている今、我々の学術的な問いも現代側に一步踏み出してみる必要があるのではないのでしょうか。

(日本音楽即興学会編集委員会 安藤大地, 田中順子, 嶋田久美, 若尾裕)